

ところ変われば



函館市医師会
函館五稜郭病院

加地 正 英

一昨年福岡から函館に転勤して、初めての越冬を経験しています。就職時では函館は雪が少なく、過ごしやすいと説明を受けました。その時は真夏で天気もよく、函館山の頂上からも素晴らしい風景で感動していました。しかし、昨年2月に自宅設営目的で函館に来たときは、記録的な大雪でした。九州と比較するととんでもない大雪でした。経験したことがない雪で、また天気も良かったので興味本位で五稜郭に行きました。帰りの飛行機まで散歩して昼食をとって十分と踏んで勇んで向かいました。観光客もいない状況で、新雪のなかルンルンで進んでいくと、濠の近所に出て、足跡があったのでたどって行くと、どうも観光客、行き止まりで引返してきている状況。かなり歩いた後で、時間的余裕がなくなり、プチ遭難状態で少し慌てる状況でした（写真1）。無事飛行機に間に合い、ほっとしたことを覚えています。やはり北海道の人の冬の話はうのみにはいけないと家内とも話した次第です。着任後は特に大きなトラブルもなく過ごしております。今年の冬は暖冬みたいなので遭難はなさそうです。

またびっくりしたのは、熊出没の件です。どうも函館の人には珍しいことではないとのこと驚いています。九州だとクマ牧場か動物園でしか見ません。施設の熊は愛嬌があってかわいいですが、野生の熊はご遠慮したいところです。しかし徒歩通勤路には熊がいます（写真2）。この熊はかわいいです。毎日共感しながら見ています。

さて仕事に関してですが、函館は大学病院がなく、患者さんが遠隔地から来られます。海峡を渡って受診される方もいます。前任地もかなりへき地でしたが、それでも隣県へは20km程度、50kmで大学病院があります。また近隣の市には大規模から中規模

の病院も多かったです。そのためカルチャーショックを受けている状態です。さらに函館規模の都市としては内分泌や神経内科、感染症などの専門医も極めて少ないのも驚いています。冬季には交通障害も起こり、高齢の患者さんも多く通院には多大な労力が必要と推測します。やはり南はこの点でも恵まれていると感じます。この頃はますます北海道の医療状況は厳しいと実感しています。

年頭にあたり、函館で仕事を始め、居住にも慣れた現在、自分の専門性を生かして、北海道とまで行きませんが、なにがしか函館の医療に役立ちたいと考える次第です。



写真1 雪の五稜郭 南方の人間にはプチ遭難状態



写真2 函館市内の熊 じっと手を見る

本会では、例年新年号に「新春随想」を企画し、年男・年女に当たられます会員諸氏より無作為に選定させていただき、執筆をご依頼申し上げます。

時節がら、ご多忙にもかかわらず、ご寄稿いただき感謝申し上げます。

北海道医師会会員数は、男性7,376名・女性987名の合計8,363名（12月14日現在）。そのうち亥年生まれの会員は別表のとおりです。

◇情報広報部◇

(名)

	男性	女性	合計
36歳	25	17	42
48歳	114	34	148
60歳	250	26	276
72歳	171	10	181
84歳	65	2	67
96歳	4	0	4
合計	629	89	718